

## 土肥氏鱗状毛嚢角化症ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/30733">http://hdl.handle.net/2297/30733</a>

# 土肥氏鱗狀毛囊角化症ニ就テ

日本赤十字社病院(二區外科)

船越光彦

本症ハ土肥慶藏博士ノ初メテ記載セラレタルノミニシテ本邦以外ニ未ダ其ノ記載及ビ報告ナシ。

土肥博士ノ報告以來年々數例ノ報告追加アリテ決シテ稀有ノ疾患ナラズ、明治卅六年土肥、百瀬兩氏ノ本症三例ノ報告以來余ノ知レルモノトシテ吉富、江副兩氏ノ姉妹ニ發見セル二例、濱野氏ノ五例、村澤氏ノ一例、中野氏ノ六例、枋木氏ノ一例、加藤氏ノ二例、未報告ニテ統計ニ表レタルモノトシテ東京醫科大學皮膚科教室ノ明治卅七年ヨリ九年ニ至ル十九例、九州醫科大學皮膚科教室ノ明治卅九年ヨリ大正四年ニ至ル六例、當病院皮膚科ニ於ケル青年男子ノ三例、田中氏ノ報告ニナレル金澤皮膚科教室ノ大正二年ヨリ九年ニ至ル七例及其ノ追加三例、合計五十五例ヲ算ス。

本症ハ毛囊性角質異常ニシテ常ニ腰腹部ニ於テ臍窩及ビ脊柱ヲ中心トシテ左右相對的ニ發生スルモノニシテ始メ毛孔ニ面砲様小硬結狀ノ針頭大ノ黒點ヲ生ジ之ヲ中心トシテ圓葉狀ノ鱗屑ヲ生ジ直徑ハ數密米ヨリ往々一―二仙米ニ達ス、表面ハ多小細皺ヲ帶ビ底面固着スルモ其ノ邊緣ハ僅カニ遊離シ土肥氏ハ蓮葉ノ水面ニ浮ブト形容シ田中氏ハ皮膚注射孔ニ薄ク「コロヂウムエ―テル」ヲ塗布シ乾燥セルモノニ酷似シ注射孔ハ恰モ發疹中央部ノ黒點ニ乾燥セル「コロヂウム」ハ鱗屑ニ比スベキモノト述べラル、其ノ古キハ鑷子ニテ剝離シ得ベク或ハ自然ニ脱落スル事アルモ中心ノ黒點ハ依然殘存シ數日ナラズシテ之ヨリ圓鱗ヲ生ズ、發疹ハ普通孤立散在スルモ時ニ密生シテ相癒合スル事アリ斯ル時ハ中ニ黒點數個ヲ含ムモノトス、新鮮ナルモノハ灰白色陳舊ナルハ汚穢褐色ヲ呈ス。

發生部位ハ腹壁及腰臀部ニ始マリ之ヨリ上下ニ蔓延シ上腿外側陰阜陰股部ヨリ膝膕下腿ニ達シ又胸側ニ浴ビ腋窩ノ

前後ニ及ビ又上腹ヨリ胸壁ニ上ル事アリ、而シテ最モ密集スル部ハ軀幹下方ニテ是ヨリ距ルルニ從ヒ稀疎トナル。  
 本症ノ經過合併症解剖所見類症鑑別等ハ土肥、田中氏等ノ記載悉細ヲ盡スヲ以テ余ハ其ノ煩ヲ避ケント欲ス。  
 余ハ最近晚期ニ發生セル本症ノ一例ヲ追加セント。

實 驗 例

患者 加古某、男、四十八歳。

遺傳的關係 父ハ六十二歳ニシテ破傷風ニテ死亡、母ハ六十三歳ニテ尿毒症ニテ死去ス。

既往症 患者十九歳ニテ淋疾ニ罹リ爲メニ舉兒ナシ、大正十年一月膽石症ニ罹リ加療ニヨリテ治ス、七月二十五日便秘アリテ「カルルス」多量ニ内服セシニ多量ノ排便アリシモ爾來發熱アリ。十月二十一日突然尿閉ヲ來シ當科外來ニ診テ乞フ、尿道狹窄ニ起因スルモノナランカトノ疑ニヨリ「アーチー」ヲ以テセシニ「二十二」號ノ通過容易ニシテ尿道狹窄ヲ認メズ。

十月二十四日入院。

現症 體格中等度筋肉皮下脂肪ノ發育尋常左胸部一般ニ濁音ヲ呈シ第

患者入院以來弛張熱(三六.五—三八.五)アリ心悸亢進呼吸困難アリ。常ニ「ベット」ノ上ニ座位ヲ取リキ、喀痰中ニ結核菌ヲ認メシヲ以テ結核室ニ轉入セシモ十一月二日遂ニ鬼籍ニ入ル。本症ニ對シテ江副、吉富氏等ハ姉妹ニ發見セルヲ以テ接觸傳染ニ依ルナラント推定シ大正六年栃木氏ノ一例報告ニ際シテ永松氏ハ癩風トノ鑑別上糸狀菌ノ檢索必要ト云ハル、依ツテ其ノ檢索ニ努メシモ陰性ニ終リキ。  
 終末ニ際シ茲ニ卑見ヲ述べ諸賢ノ批判ヲ仰ガントス。

一、本症ニ就テ土肥氏ハ男女ノ間ニ差異ヲ認メズトセルモ、田中氏ノ統計觀察ニ依レバ本症四十四例中男子三十七

五六肋間ニ「ラツセル」ヲ聽ク脈搏ハ整調ナレドモ柔弱、右腎ニ抵抗アリテ壓痛アリ、努責スルヲ得ズ常ニ右腎部ハ尿ノ停留スル感アリト下肢ニ中等度ノ浮腫ヲ認ム。

膀胱鏡検査ニ於テ膀胱容量ニ變化ナク中等度ノ肉柱膀胱ヲ認ムルノ外兩側輸尿管其他ニ異常ナシ。

局所症狀

腹壁及ビ腰部ニ於テ臍窩及脊柱ヲ中心トシテ左右相對的ニ毛鱗ニ一致シ米粒大ヨリ小豆大ノ落屑性ノ發疹アリ、新蘇ナルモノハ灰白色乃至淡褐色中心ニ針頭大ノ黒点アリ較々突出ス陳舊ナルモノハ汚穢濃褐色ニシテ鱗屑ノ剝脫セントスルモノ三四アリ他ハ縁邊遊離シ剝離シ難シ。

炎症々狀ヲ認メズ。

例(七十八%)女子八例(二二%)ニシテ當皮膚科宗氏ノ追加三例余ノ例又悉皆男性ナリ。

二、本症罹患者ハ概シテ身體健全ト土肥氏記載サレ其他ノ諸氏ノ記載略同様ナリ、田中氏ノ報告七例中「二十歳」ノ男子腎臟膀胱結核ノ一例アリ余ノ例ニ於テモ肺結核患者ナリ。

三、發生部位の關係ハ腰腹部ニ於テ臍窩及ビ脊柱ヲ中心トシテ相對的ニ上下ニ及ブトセルハ殆ド一致セル處ナリシモ田中氏ハ非對側性ノ二例ヲ七例報告中ニ記載サル。

四、治療ニ關シテ加里石鹼洗滌後一五%水揚酸華攝林ノ塗布、ビック氏硬膏貼布亞砒酸劑ノ內服注射アレド卓効ナシ、田中氏ハ「レゾルチンアルコール」ノ塗布ハ著シク輕快セルト、而シテ治療ニ關シテハ尙將來ヲ期スト。

五、又土肥氏ハ本症ハ二十三歳ヨリ三十歳ノ間ニ來ルト云フ、其ノ後ノ報告又同期年齡ニ來リ年齡的關係ハ既ニ決定的ノ感アリシニ本例ニ於テハ四十八歳ノ男子ニ發生セルモノニシテ患者ハ本年一月膽石症ニ罹リシ際之ヲ發見セシモノナリト云ヘバ陳舊性ノモノナラザリシヤ明カナリ。

六、原因の關係ハ江副、吉富氏等ハ接觸傳染ニ因ルモノトシ、田中氏ハ然ラズト推思サレ原因の關係又確實ナラズ。以是觀是バ性的の關係ニ於テ男子數遙ニ多ク本症ノ發生ニ關シテハ結核ト關係ヲ有セザルヤ否ヤ部位の關係ニ就テモ亦特異型ノ記載アリ、年齡の關係ニ於テ今ヤ決定的統計ヲ破リ原因の關係又論爭裡ニアリ確定セズ。要スルニ本症ハ尙將來ノ研究ニ期スベキモノ多キヲ信ズ。

参 考 書 目

1) 土肥慶藏著、皮膚科學下卷。 2) 土肥慶藏、百瀬玄溪、(日本皮膚科及泌尿器科雜誌第三卷第六號)。 3) 吉富順次郎、江副三郎(同上第四卷第二號)。

4) 濱野太吉(同上第八卷第二號)。 5) 土肥慶藏、(同上第十卷第七、八、九號)。 6) 村澤吟次郎、(同上第十四卷七十二頁)。

7) 中野等、(同上第十五卷一六二頁)。 8) 栃木喜代治、(同上第十七卷八二頁)。 9) 加藤泰、(同上第十九卷一五一頁)。

10) 淺田、吉村、大森、栗崎、共著、(九州醫大皮膚科教室發兌、我カ教室ノ新築ト七年)。 11) 關川、原、荒木、納富、占部、共著(同上發兌開講十週年誌)。

12) 田中清次、(十全會雜誌第二十五卷一號)。 13) 田中清次、(皮膚科及泌尿器科雜誌第二十一卷第二號)。